



大会の成績は次のとおりです。

●第1分団(ポンプ車の部)

第2位 153.5点

第1線タイム：57秒46

第2線タイム：69秒18

指揮者 東 明彦(部長)

1番員 近藤 裕昭(団員)

2番員 谷岡 一仁(団員)

3番員 芝 隆裕(団員)

4番員 二宮 博之(団員)

補 欠 宇都宮克志(団員)

●第2分団第1部(小型ポンプの部)

第5位 71.5点 タイム：47秒38

指揮者 佐々木健次(班長)

1番員 山口 信哉(団員)

2番員 高田 英樹(団員)

3番員 池田 貴幸(団員)

補 欠 鶴井 正人(部長)

●第4分団(小型ポンプの部)

第3位 73.0点 タイム：44秒36

指揮者 岩本 啓介(班長)

1番員 兵頭 和一(団員)

2番員 杉本 直人(団員)

3番員 松本 真吾(団員)

補 欠 渡邊 康志(団員)

燃え上がる消防魂

消防団員の士気と消防精神の高揚を図り、住民の生活の安全に資することを目的として消防操法地区大会が6月27日、宇和島市で行われました。

消防操法とは、消防団の基本的な訓練の一つで、給水箇所とポンプ・ホースを連結、放水し火点と呼ばれる的を倒すまでの一連の動作のことをいいます。

今大会では、第1分団がポンプ車の部、第2分団第1部、第4分団が小型ポンプの部に出場し、数ヶ月前から始めた練習の成果を発揮しようと奮闘しました。

優勝したチームだけに与えられる県大会への出場権。それに向けて、スピードと正確さにこだわってこの日まで練習をしてきた選手たちのプレッシャーは最高潮に。各団員は、それを打ち消そうとするかのように、出番が来るまでの間、入念な最終チェックを行っていました。

しかし、指揮者の「操作始め」の声とともに駆け出した選手たちは、プレッシャーなど感じさせないほど一心不乱に操法を行っていました。

操法を終えた選手たちは、一様に安堵の表情を浮かべ、健闘を称えあっていました。

県大会への出場権こそ得られなかったものの、仲間たちとの絆、また地域の安全に対する意識はより深まったものと思われれます。

